



安々通信

高齢者あんしん相談センターは、八王子市が設置している
高齢者の方の総合相談窓口です



新年おめでとうございます。延々と終わることのない戦争、スマホ介して海外から詐欺グループが暗躍、気候変動に人も動植物も大きく巻き込まれ地球規模で先行きが不透明ですが、新型コロナウイルスが5類感染症に移行した時には、まるで大きな足かせが外れたようでした。足かせは外れたとしても人材不足の足音が大きくなりました。福祉・介護業界も、工夫次第でピンチをチャンスに変えるべく、個人や団体の枠組みを超えてつながることが求められています。今年はやき年となりますように、今年こそは。



高齢者あんしん相談センター子安 センター長 中村 真理



こんな契約トラブルに注意!!



『点検商法』 ~ 無料点検から高額契約に ~

依頼していないのに、給湯器や住宅の点検に来る事業者に注意!

『無許可の廃品回収業者に注意』

当初提示された料金の数倍を請求されたり、キャンセルの際には高額なキャンセル料を請求するなど、違法な回収業者と利用者とのトラブルが多発しています。

契約のトラブルなどでお困りの際は、まずご相談ください。

八王子市消費生活センター

相談専用電話 ☎ 042-631-5455

月 ~ 土曜日の午前9時 ~ 午後4時30分 (祝・休日、年末年始を除く)

(八王子市消費生活ニュースより一部引用)



コラム 老いじたく

最終回

とある城下町に手作りの大皿料理をカウンターに並べ、温かくもてなしてくれる小料理屋がありました。店の売りはトロロに煮込んだ馬筋の煮込みとママの笑顔。いつの頃からか認知症を患い、開店前に準備する料理が作れなくなり、ここ数年は娘が母親直伝のレシピで料理を作り、ママはただカウンターに座って笑顔でお客様をお迎えする役割でした。ママが店に出られなくなったと同時に閉店。お客様は皆ママのファンだからと迷いはなかったようです。

今、私と同世代の娘は介護中心の生活を送りながら、母親がデイサービスに通う日に自由な時間を謳歌しています。早くに母を亡くした私には真似しようもない親との向き合い方、少しうらやましくもあります。50代の私たちは自分自身の老いと同時に親の老いとも向き合っていく世代なのです。

人生の大先輩である高齢の方と接する中で、生き方や老い方、いずれ誰にでも訪れる「死」のことを日々考えている耳年増のマル子です。日本は少子高齢社会と言われて久しく、高齢化と表裏一体で「多死社会」が進んでいます。2022年の1年間に国内で死亡した日本人は156万人余り、統計を取り始めてから過去最多で今後も増え続ける見込みとのこと。火葬するのに12日待ちとのニュースを目にし、そう言えば隣市の洒落た洋館作りの老舗レストランが閉店し、その後霊安室として使われていると聞いてえらく驚きましたが、総合病院が近くにあり、そういうことか!と妙に納得したものです。

「多死社会」、身近に感じられないかもしれませんが、病院で亡くなるのは年間90万人、さらに国は病床数削減の方向で、この先どんな風に生きて、どこで最後を迎えるのかを考えておかねば。地縁も社縁も血縁もなく、無縁死に近いリアルな現実(血縁者がいても関わりたくない拒否するケースも(涙))を見ているマル子は、メント・モリ(=死を想え、死を意識することで今を大切に生きることができるとの解釈。有名な写真家の40年前の著書のタイトルでもある)と唱えながら、本コラムを締めくくりたいと思います。

